

# 「ヨイショ！ヨイショ！」の掛け声が響く。 餅をつくのも、つきたての餅を食べるのも原発避難後初めて

1月6日に行われた「新春餅つき大会」について日本共産党浪江町議会議員の馬場績（いさお）さんからルポを送っていただきました。

## ここにあたたまる新春餅つき交流会



新年のあいさつと笑い声の賑わい

2019年1月6日、原発避難から9年目の新春。「浪江町民との交流支援」と安達地方農民連や二本松復興共同センターの参加団体と石倉団地自治会正（会長本田昇氏）の共催で「新春餅つき交流会」が開催され、私も参加しました。午前10時過ぎ。快晴、風は冷たい。交流会場となつた県営石倉団地集会所前にはテントが張られ、新年的挨拶と笑い声が聞こえる賑わいです。会場には豚汁の大ナベがあり、新鮮な野菜とみその香りが漂つてくる。農民連が持ち込んだ本物の白が置かれ、ハガマ（鍋）からは蒸けあがる湯気が景気よく昇り立つている。

外は寒いが心が暖かくなる

今から今かと餅つきを待つ周りの人々、会場の傍らでは農民連の菅野正寿さんが慣れた手つきで餅つきの準備を進めていた。並んだたくさんの野菜、あちこちでお目当ての買い物人が並ぶ。テントの中でも外でも石倉団地からの参加だけでなく市内のあちこちからも、中には福島に避難している町民も参加していました。しばらくぶりの出会いに笑顔のあいさつがあふれている。外は寒いがなんとも心が暖かくなる風景だ。

## 文化としての「農業」が 脈々と続いているからこそ

### 「共にたたかう」 農民

ハイライトは餅つき。最初に杵を持つたのは本田会長。続けて「俺も、私も」と老若男女餅つきに挑戦。会場からは「ヨイショ!! ヨイショ!!」の掛け声が響き、浪江町民と支援者と会場が一体感に包まれたのです。「白餅を自分たちがつく」のも、掲げ立てのモチを食べるのも、原発避難後それぞれが初めてのことではないだろうか。



杵を持つ馬場町議（左）

## 「福島の未来」をさし示す キーワードは「原発ゼロ」

浪江町は避難指示解除から間もなく2年。しかし「帰還して暮らせる基盤整備はおおむねできた」として国（町）は避難解除

を強行したもののが873名の帰還（2018年12月末）にとどまっている。原発事故の犠牲はもうたくさんです。原発事故の責

任を認めない国・東電。「福島の未来」の

キーワードは「原発ゼロ」。安倍政権が復帰して7年。国会は「毎月勤労統計」不正など腐敗政治そのもの、それは安倍政権の「病理」ともいえる。国民不在の政治は国民の力で引きずりおろすしかない。

## 農民連フラッシュ flash

### 家族農業10年がスタート

農民連第23回大会が1月15日～17日開かれました。結成30周年を迎える今年は国連の「家族農業の10年」のスタートの年でもあります。安倍農政が食料自給率低下も地方の荒廃も加速させ、農業が重大な岐路に立たされています。様々な人々との連帯した運動と多くの仲間を迎え入れ、日本の農業を守るために頑張ることを確認しました。



### GAP・環境保全型農業研修

1月11日（金）農業総合センターにおいて県農林水産部、瀧田克典さん講師にGAPの基礎と国が2021年から「ほぼすべての国内の産地で国際水準のGAPを実施する」ことを目標にしていることに平成30年、31年に限りUFG AP（運営主体が福島県）の認証がされると書類の提出で省略できるものがあることなどを上げ県としても広く推進したい、それが生産者の身を守りよい農業を続けていくために重要。と学びました。その後、「ニーム（減・無農薬農業を実施するための農業資材）」の効果、使用方法の研修もしました。



青年部の活動、地元の農や食のことをリレーで紹介  
＼ 青年部の活動、地元の農や食のことをリレーで紹介 ／  
若き農業者のつぶやき の一と  
せいねんぶ農人

今年初めの浜通り青年部役員会を開催。今年は県内外から様々な講師を呼んで知識を高めるために学習する年と決定しました。また地域復興のために若者や学生との交流も積極的に行っていきます。楽しい一年になるといいな♪ by宮本

